

「商品より、誠意を売る」ことを行動の原点に 100年以上使い継げる家具作り

トキハ産業 株式会社

今月は、大阪市都島区に本社を構えるトキハ産業株式会社取材させていただきました。1947年に別注家具メーカーとして創業した同社は、蓄積してきた技術を駆使し、現在は、木製天板を中心に事務機器・業務用家具を生産しています。近年では、天然木や天然塗料などの体にやさしい素材を使った日用品を扱う自社ブランドを立ち上げ、社会に貢献されています。今回は代表取締役の藤川龍磨氏にお話しを伺いました。

トキハ産業株式会社
TOKIWA manufacturing Co.,Ltd.



春日工場（兵庫県丹波市）

トキハ産業 株式会社

代表取締役：藤川 龍磨 氏
本社：大阪市都島区大東町2-17-9
創業：1947年（昭和22年）
従業員数：80名
事業内容：オフィス用家具の製造

— 創業の経緯について

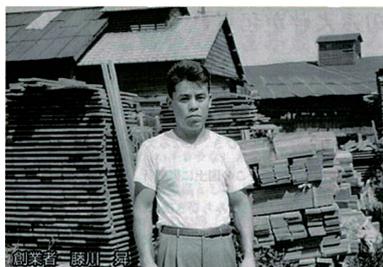
私の父であり創業者である藤川昇が、戦争が終わり、これから復興が始まる日本で何が必要とされるかを考え、導き出したのが家具作りでした。父は木工についての知識がなかったため、夜間中学に通うかわら、職業訓練学校で木工の基本を学び、1947年に下駄箱や書棚をはじめとした別注家具を製造する藤川家具製作所を、現本社所在地にて創業しました。当時、木工商品は職人の腕に依存するところが多く、大量に生産することが困難でした。そのため、事業はなかなか軌道に乗らず大変苦勞したと聞いています。その状況を変えたのは、メラミン化粧板という新素材との出会いでした。メラミン化粧板は色柄や硬さが均一なので、木目を読むなどの職人の力に依存する必要がなく、誰でも扱える素材であるうえに、その当時ほどの企業も本格的に扱っていないものでした。この素材を使用することにより、作業の機械化が進み、生産性は飛躍的に向上し、会社の業績はあがっていきました。

— 社名の由来

長く続く会社でありたいという思いを社名にしたいと考え、日吉神社の宮司さんに相談したところ、「常磐（ときわ）」という言葉を使ってはどうかと助言をいただきました。常磐（常盤）とは永久不変な岩のことを指し、転じて永久不変なこと。また、常磐（常葉）とは冬でも緑色のまま不変である常緑樹を指すという二つの意味を持つことから、ふさわしい言葉だと考えました。また、将来は扱うものを家具だけに限定するのではなく、何でも扱える社名にしたいと「産業」という言葉をつけ、常磐産業株式会社という社名が上がりました。その後、多くの方になじんでもらうために、カタカナを使用してのトキワ産業株式会社。最終的に、社名に踏ん張り、末広がりの意味をもたせるため使用する文字をワからハに変えトキハ産業株式会社になりました。

— 失敗を糧に

高度成長の波に乗り、業績が好調であった矢先、会社の存続をゆるがす問題が発生しました。当時、当社では会議用テーブルに使われる天板を数多く受注しており、作業の効率性をあげるために、天板の木口両面を同時に接着できる機械を導入していました。ただ、接着条件の調整等が難しく、接着品質が安定しない状態が続きました。



創業時の写真
創業者 藤川 昇 氏



一家具の品質を保証し 戸籍の役割を果たす銘板

厳しい認定基準をクリアした家具だけに与えられる、長寿命・高品質の証。審査と認定は、専門家で構成される第三者機関「家具品質評価委員会」が担当。銘板ごとにカルテを作成、その番号で家具の生涯（メンテナンス、修復、再生など）を一元管理する。※銘板のデザインは随時変更されています。



一生活の中で「木の温もり」「心地よさ」を感じる

自社ブランドであるハーモニックハウスの商品は、天然木・無垢材を基材に、天然塗料で仕上げられます。シックハウス症候群などの原因となる人体に有害な揮発性物質を抑えられた家具は、温もり、心地よさを与えます。

その結果、当社の天板を使用した会議テーブルのエッジが剥がれるという問題が起きてしまいました。天板の交換が必要ですが、莫大な費用がかかります。その額は想像もつかず、経営が立ちゆかなくなる可能性があります。その際、社長である藤川昇が選択したのは全ての天板を交換することでした。販売メーカーさんと交換のために各地を歩き続けた時間は、後処理をいれると5年の歳月を要しましたが、そのコツコツと誠実に対応した話は業界内で広がり、評価され、取引のなかった企業から引き合いがくるようになりました。またこの失敗を糧に、接着方法の検討を行い、西ドイツに剥がれにくい上に、クッション性や耐水性に優れているウレタンを使う方法があることを知り、西ドイツへ行って工法を学びました。日本とは気候や湿度が異なるため、西ドイツから輸入したウレタン原料をそのまま使用することができず、商品化を諦めかけましたが、いろいろな方にご協力いただき、製品化にこぎつけました。



ウレタン一体成形製品

一新たな事業分野への挑戦

当社のような耐久消費財を扱う企業は急激な景気悪化の事態が起こると、たちまち影響を受けてしまいます。そのような状況にも対応すべく、新たな事業に挑戦することを決心しました。

事業の選定にはいろいろと思いましたが、創業以来60年以上、樹木のおかげで成長してきた企業なので、樹木の特徴を生かせる商品であり、そして、健やかでやさしい生活のお手伝いをする商品であることが軸になりました。その思いで商品化したのが「ダニよけシリカシリーズ」です。この商品は樹木のエキス（樹液・アロマなど）を使用した天然由来の機能性香料で、ダニの増殖を抑制する芳香・消臭剤です。



一今後の目標について

創業以来、当社では「個人の成長が会社の成長」、「商品より誠意を売る」ことを行動の原点としています。そのおかげで、取引先様、地域の方から高

い信頼を得ることができていると思いますので、今後も継続していきたいと考えています。その思いから取り組んだことの一例が、環境・安全に配慮したハーモニックハウス店の立ち上げと「長寿命な家具の取り組み・ハウスオブツリー」事業の普及活動です。ハウスオブツリーとは、販売店とメーカーや工房が連携して点検、補修を行いながら、家具の長寿命化を図り、不要になった場合には家具を引き取り、再生し、次の使用者に再販売して使い継いでいくシステムで、家具の使い捨てによる地球環境への負荷を減らす取り組みです。

さらに、環境方針として「世界最高水準の環境保護企業」となることを目標にISO14001の認証を取得し、全社的な環境負荷低減の取り組みを続け、2010年には国から独自性ある環境志向の事業として、「新連携事業認定」を受けました。

これからも「快適空間を創造するお役立ち企業」として、他社にない卓越した技術の活用を通じて、明るく真に豊かで文化的な社会の実現をお手伝いしてまいります。

一貴重なお話をいただき

誠にありがとうございました